

株式会社ジェイコム小田原

2015 年度 放送番組審議会 議事録

【日 時】 2016 年 3 月 11 日(金) 10:30~12:00

【場 所】 ジェイコム小田原 2 階 会議室

<放送番組審議会委員>

ご出席

芳澤 一夫様 浅野 俊哉様 井澤 幸雄様
杉田 倫子様 関野 次男様

ご欠席

樋口 正人様 石井 護様 柳川 ひとみ様

<事業者：株式会社ジェイコム小田原>

社 長 山田 文雄
監 査 役 清水 清
地域プロデューサー 山 際 淳

<事業者：株式会社ジュピターテレコム 関東メディアセンター>

神奈川制作グループ長 高橋 武洋
小田原制作チーム長 宝子山 紀洋
業務推進グループ 竹安 克哉

1. 開会

午前 10 時 30 分・定刻に審議会を開会した。

審議会規程の過半数の出席を満たし、会は成立。

冒頭山田社長から、J:COM との統合により番組制作を関東メディアセンターに委託することになった経緯について説明。

続いて事業者側出席者が自己紹介を行った。

続いて事務局より放送番組審議会規程の説明。

このあと、会の進行を芳澤会長に委任し、議事に移った。

2. 株式会社ジェイコム小田原の近況報告（事業者）

- ・平成元年設立～来年度平成 28 年 4 月 1 日・株式会社ジェイコムイーストと吸収合併
- ・これまで小田原市が 3%資本参加していたが、今回株式会社ジュピターテレコムがこの株を買い取ったのちに合併。第三セクターでは無くなる。

委員：＜合併による変化は？＞

- ・基盤を強化するための合併ということだが、エリアや実際の運営については大きな変化は無いと考えて良いですか？

(回答)事業者：株式会社ジェイコムイーストは複数局を持つが、番組編成・制作については局単位で行うので、これまでと大きく変わることは無い。

委員：＜番組審議会及び審議会規程はどうなるのか？＞

(回答)事業者：審議会は今後も小田原局として開催し、審議会規程の内容も現状と変わることは無い。

3. コミュニティチャンネルの報告（事業者）

① J:COM チャンネル編成方針

- ・地域密着、地域力強化(地域プロデューサー、地域アナウンサーの擁立)
- ・デイリーニュースの定着化

② 主なレギュラー番組、特別番組、生中継番組、県域番組の紹介

- ・レギュラー番組
 - 「デイリーニュース」「タなび(1月からリニューアル)」
- ・特別番組
 - 「第 51 回小田原北條五代祭り」「足利金太郎まつり」「開成町阿波踊り」
 - 「松原神社宮入」「小田原ちょうちん夏まつり」「小田原酒匂川花火大会」
 - 「ODAWARA えっさホイ踊り」
 - 「～HaRuNe 小田原一周年～おいでよ小田原！わくわくプレゼント大会」
 - 「高校野球神奈川大会 生中継」「高校野球ダイジェスト 2015」
- ・J:テレ(地域発全国放送)
 - 「KANAGAWA 全国高等学校ストリートダンスバトル」
 - 「ご当地サタデー」(小田原市長出演、南足柄市長 6 月出演予定)
 - 「浜降祭」「第 10 回湘南国際マラソン」「泉秀樹の歴史を歩く(特番)」

③ 番組のダイジェストを約7分にまとめた DVD を視聴

④ 昨年度番組審議会が出されたご意見への対応を報告（事業者）

- ・<神奈川県の河川水位情報を活用して欲しい>
→山王川の氾濫状況など県の水位情報を入手活用して取材を行った
- ・<災害時に、投稿動画のサイトをネットワーク化できないか？>
→J:COM 本部で検討を重ねている
- ・<番組を見てもらうための PR が足りないのではないかと？>
→各所でのイベントに出向いてデイリーニュースのチラシを配布した

4. 審議（質疑応答 意見交換）

委員：<関東メディアセンターとは？>

(回答)事業者：メディアセンターは、ケーブルテレビ J:COM74 局の親会社・株式会社ジュピターテレコムの所属になり、そこから各局に出向して番組制作を行っている。

委員：<番組が年々充実して来ている>

- ・年々工夫を重ねられて、楽しくなっている。
- スタッフの「より見てもらえる番組を作ろう」という姿勢が感じられる。

委員：<地元の情報が増えてきたと感じる>

- ・以前から見えますが、J:COM になって小田原の話題を放送する番組が少なくなった時期があったが、最近になってまた地元の情報が増えるようになって良かった。

委員：<来年度の小田原のイベント企画について紹介>

- ・今年の小田原北条五代祭りは、早雲公役を柳沢慎吾さんがつとめる予定。
- ・JR 東日本(横浜支社)の企画で「伊豆クレイル」というリゾート列車が 7 月に運行予定。
小田原発で伊豆下田までを往復する。
小田原市としては、小田原駅の待合室の木質化(小田原の木材を使って)を行う。
- ・5 月 1 日に小田原城天守閣がリニューアルオープンする(摩利支天像空間再現)。
- ・全国の JR の駅で漁港に一番近いのが早川駅。
- ・北条五代と言われるが、実は関西で氏直の家系は現在まで連綿と続いていた。
- ・話題がいっぱいありますので、番組で取り上げていただきたい。

委員：地元だから掘り出せることというのがありますね。

委員：<データ放送の天気予報の精度は？>

- ・データ放送の天気予報アクセス数が多いということだが、地域別にメッシュ化されていて近づいてくる雲が分かる、というようなメニューになっているのか？

(回答)事業者 :そこまで細かくセグメントされたメニューにはなっていない。

小田原市単位での予報である。

委員 :・天気予報はニーズが高い。最近スマホでも簡単に見られるが、高齢者がお出かけの時に、雲が近づいてきているか？など知ることができるようになれば、コミチャンとしての存在意義が増す。

委員 :<コミチャンにも外からの視点を入れることが大切>

・地域参加型でやっているが、全国的な人が外からの視点で見ることも大切。

内部の人だけだと視野が狭くなる。

世代(若い人達)も一つの「よそ者視点」となりうる。

コミチャン＝地域の高齢者、ではなくて高校生や大学生、20代の視点を掬い取るような番組があるとまた地域の魅力が再発見できるのではないか。

委員 :<天気予報はエリアを細分化して欲しい>

・データ放送で「小田原市大雨警報」などが出るが、地域によっては実情と異なり、かなりギャップがある。

地域でもう少し細分化された情報が得られるとありがたい。

委員 :<高齢者が取材を歓迎するようになった>

・昨秋、小田原市の社協で「ふれあいサロン」を催し、取材に来ていただいた。

平成25年にスタートした時は参加者も少なかったが、今は40人を超えて、「どうやって集めたんだ？」と聞かれるまでになった。

最初カメラに写ることを嫌がっていた高齢者も「今度いつ取材に来てくれるの？」と自分がテレビに写ることを楽しみにするようになり、ケーブルテレビが高齢者福祉に果たしている役割も大きいと感じる。

委員 :<三世代交流を支援できるメディアであって欲しい>

・大井松田の第一生命館ビル跡地利用(黒岩知事の「未病を治す」プロジェクト)の企画に携わっているが、ここで三世代交流に焦点を当てたものやりたい。

「笑いを未病治療に活かす」という狙いで、いち早くよしもと興業が手を挙げたが、今県西地域で非常にホットな話題が多いと感じる。

その中でJ.COMには三世代が楽しんで生きて行くことをお手伝いできるメディアであって欲しい。

委員 :・「未病」には南足柄も関わっているので、是非よろしく願いいたします。

富士フィルムさんが中心になって今いろいろと考えています。

(回答)事業者 :「未病」を一つのキーワードに何か取り組めれば…ということは、今重要課題として検討しています。準備段階です。

(回答)事業者 :これまで J:COM は小田原市とのパイプはあったが、県とのつながりあまりなかった。

今年は、吉川副知事とのパイプを活かして、県西の未病テーマに取り組みたい。

委員 :・全国ネットになりそうな話題が今たくさんありますね。

委員 :・全国ネットだと、一回で終わってしまうが、J:COM さんは旬な話題であっても、継続してやっていただけるのでありがたい。

委員 :〈シニア世代が活躍できる取り組みを〉

・「プロダクティブエイジング」の取り組みをやっています。

早川の農地を借りてみかんを育てたり、1人親世帯の子どもたちにシニア世代が教えたり
市民交流センターUMECO の運営もシニア世代がやっています。

今、5つぐらいの事業が進んでいます。

委員 :・皆さんお金が目的ではない。番組制作にもシニアを活用しては？

委員 :・地域アナウンサーにシニア世代を起用してもいいかも知れませんね。

キーワードは「社会貢献」「やりがい」。

5. 閉会

委員 :・最後にまとめるわけではありませんが…全国規模の話題も多いが、忘れてはいけないのはやはりローカルエリアの話題。

ボランティア活動の取材とか、地元の人々をテレビに出すこと。

必ずしも有名タレントにこだわる必要はない。それよりは、本当にその局の顔になるような人物がいると思うので探していただきたい。

以上をもって質疑応答が終了し、12時10分に審議会を閉会した。

以上